

保護者と指導員が力をあわせてがんばり、 学童保育の改善に取り組んでいきましょう

全国学童保育連絡協議会 会長 西田隆良



読者の皆さん、あけましておめでとうございます。

「新型コロナウイルス感染症」をめぐるのは、一進一退という状況が続いており、そのなかでの生活が、2年にもおよんでいます。この間、学童保育は、就労をはじめとした、保育を必要とする家庭とその子どもたちの日々の生活を支える事業として、その役割を果たしてきました。子ども・保護者・指導員は、共に力をあわせて、たいへんな緊張感と苦労のなか、感染対策を図りながら、放課後の“日常”を守りつづけています。

この間、学童保育については、「社会機能を支えるための重要な事業」であるとの認識があらためて広まりましたが、同時に、学童保育の制度がさまざまな脆弱さと課題を抱えていることがコロナ禍を通じてあらためて顕在化しました。

今後も、困難な状況の改善・解決に向けた働きかけを進めていくことは、私たちにとって重要な課題です。

* * *

2021年10月23日、24日の2日間にわたって、「第56回全国学童保育研究集会」(以下、全国研)がオンラインで開催され、全国各地から4612名の参加がありました。開催に向けた企画・準備では、全国各地の学童保育連絡協議会関係者が共に議論と試行錯誤を重ね、当日も分科会の運営を担いました。みんなでつくり、みんなで参加する。学童保育を大切に思う仲間がいるからこそ実現できた、このたびの全国研です。成功のために力をあわせてくださった方々に、あらためてお礼を申し上げます。

ここで得た学びと経験をふまえて、「第57回全国学童保育研究集会」の開催に向けた準備ははじまっています。共に力をあわせて、成功させていきましょう。

* * *

子どもが負担に思うことなく学童保育に通いつづけるためには、「人数規模の上限を守りながら、必要な数の学童保育を増やすこと」「支援の単位ごとに、子どもの受け入れを明確に区分し、それぞれに施設を整備し、適切な指導員数を配置すること」が必要です。あわせて、専門的な知識や技能を備えた有資格の指導員が働きつづけるなかで経験を蓄積し、子どもと安定的に継続して関わりを持てるようにすることも重要な課題です。

全国学童保育連絡協議会では、学童保育の制度の拡充に向けて、2022年春の通常国会に「国会請願署名」と「一人ひとりの声」を届けるための取り組みを行っています。

新しい年が、読者の皆さんと学童保育にとってよい年になるよう、共に力をあわせて取り組んでいきましょう。

